

## 2005 年度

### 2005 年度役員

会長	遠藤 彰
チーフリーダー	上野 午良
サブリーダー	尾崎 宏和
学生リーダー	島田 悠彦
会計	山田 裕久
記録・会報	尾崎 宏和
	灘吉 聡
	島田 悠彦
装備	灘吉 聡
ホームページ係	灘吉 聡
西高係	山野 裕
	福村任生
都岳連関係	上野 午良
超 OB 係	林 武志

## 2005 年度 山行記録

### 0501 越後/VR：大源太コブ岩尾根～セツ小屋山～土樽

【期日】2005. 4. 9(土)～10(日) 【参加者】灘吉, 尾崎

4/9 清水 4:40-7:29 丸ノ沢出合 7:44-8:25 取付手前-14:30 コブ岩基部-17:00 終了点-17:38  
大源太頂上-18:00 雪洞地点

久方ぶり？の気合入ったまじめな山行。灘吉は宇都宮から、尾崎は東京から、越後湯沢で落ち合い六日町で降りて駅寝となる。今年は、駅前にもまだ雪が多い。

翌朝一番、午前 4 時にタクシーで巻機山登山口の清水へ入る。除雪終点はいきなり 2m 以上の壁。おまけにまだ真っ暗。とはいえ、よく見ると山スキーの人か？林の中にテントが張ってあったりする。手短に準備を済ませ、電灯つけて出発。程なく明るくなるが、右岸の林道はさっそくいやらしいトラバース斜面の連続となる。

丸の沢出合いまで来ると流れも完全に雪の下となる。沢筋が広がると、コブ岩尾根の全貌が現れる。威圧感を感じさせるほどでかい。運良く尾根取り付き直前に雪の切れたところを見つけて水をくみ、改めて資料に目を通す。こりゃ一筋縄ではいかないか？？？ちょっとビビりながらの登高開始。それでも、暑いくらいの春の日差しとぐいぐい広がる展望に助けられ、足取りは順調だった。

1 峰まではただの雪尾根。それを過ぎるとけっこう切れた稜となってくる。ヤブこぎも部分的に現れるがまだ楽しむ余裕はある。トサカ状岩峰は左から巻いたが、最後が立った岩を登ることとなる。右からでも行けそうだった。いよいよ残雪も多くなって、傾斜も増す。シュルンドを乗り越えたり、ヤブを漕いだりルートファインディングを繰り返す。足元の谷では、でかい雪崩が見た目はゆっくりと、ブルドーザーのように押し流れていたり、ブロックが崩落していたりする。



丸ノ沢から見上げるセツ小屋山



コブ岩尾根の全貌



基部より見上げるコブ岩

ツルベで 3P, 両側ともに切れ落ちたキノコ雪稜をダブルアックスで進む。コブ岩がいよいよ真上である。基部までヤブをこぎ、左の雪渓へ降りてこれを詰める。ルート取りは明瞭だが、雪渓は急でシュルンドがバツクリと割れている。灌木に支点を取って懸垂で雪渓に下り、そこからツルベで 2P 半の雪壁登攀となる。各自、ダブルアックスにスノーバーとデッドマンを装備。スノーバーで中間支点を取った。谷の向こうの山は夕日に染まってほんのりオレンジ色に輝くが、日の陰ったこちら東斜面はすっかり冷え込んでくる。

頂稜へ出たのはちょうど 17 時。西の山々の展望も開け、最後のナイフリッジを慎重にこなして大源太山頂上に立つ。南には谷川岳が遠く黒く、そして万太郎山は鋭い山容を見せる。巻機山への稜線は穏やかに夕日に染まっている。8 年も前、一人ヤブと戦ったのがウソのようだ。登攀後の充実感にしばし浸った。

時刻はすでに遅く、今宵はツエルト泊まりかと考えていたが、平地を求めて弥助尾根へ入ると左の北沢源頭にぽっかりと雪のテラスを発見。その斜面で、幼い(?) 2 人は疲れも吹っ飛び、かまくら掘りを楽しんだのでした。

日もとっぷり暮れ、辺りが夜闇に包まれた頃、残業も終了。壁を削って水を作る。立派な雪洞は下手なテントよりも快適だ。荷物を整理していると…ああ?, 軽量化したはずがコッヘルは重い。忍ばせていた小缶ビール。忘却の果てより再会。

4/10 発 8:52-10:15 セツ小屋山 10:30-11:38 シシゴヤの頭手前の  
コル-14:10 土樽

前夜、寝る間に外気温が妙に暖かいのが気になった。それでも無事に快晴の朝を迎える。昨日の就寝が遅くなったこともあって出発は 8 時半を過ぎてしまう。足拍子岳が遠くに黒々と見えるのも手伝って、今日は 2 人ともお帰りモードが漂っている。

セツ小屋山への稜線も、最低鞍部までは雪庇とナイフリッジで侮れない。振り返るとコブ岩尾根を従えた大源太がなかなかの風格である。セツ小屋山まで来るとスキーのシュプールが湯檜曾川へと伸びていた。時間的にも足拍子はきついと判断し、また、見た感じ足拍子南稜の急な下りで雪の状態が悪そうに思え、1544m ピークとシシゴヤの頭との鞍部から蓬沢へと降りることとする。この鞍部下はスキーになかなかよさそうで、しばらくすると実際に何人ものスキーヤーとすれ違う。蓬沢に降り立てば、あとは消化戦と思うのか、右岸の雪道は妙に長く感じたが、充実のアルパインルートであった。



残照の頂上に立つ



コブ岩尾根バック

## 春山合宿 2005

### 0502 北アルプス/ST：拇池～小蓮華岳北西面滑降～雪倉岳

【期日】2005. 5. 3～5 【参加者】加藤，上野(午)，尾崎，灘吉，上野(利)，糸野(CRUX)

#### コースタイム

5/3 白馬大池駅集合 6:30＝拇池高原＝(ゴンドラ・ロープウェイ)＝自然園下 8:50－11:05 白馬乗鞍岳 11:28－14:32 小蓮華岳 15:00－滑降開始 15:15－19:00 瀬戸川渡渉点幕営地  
5/4 発 7:15－8:10 R 8:25－9:20 R 9:35－11:10 R 11:33－12:02 雪倉岳 12:48－14:30 幕営地  
5/5 発 7:01－8:25 蓮華温泉 9:07－9:53 R 10:25－11:25 角小屋峠 12:02－13:30 R－14:50 木地屋

#### 概略

今年の GW は山スキー。そんな暗黙の了解が早くからあったように思う。4/23 の総会時にはほぼこのルートで確定。天気予報も最高、いよいよ待ちに待った陽光の北アルプスへ。5/3 早朝白馬大池駅集合。松本からは尾崎の所属する CRUX アルパインクラブの糸野さんも合流し、総勢 6 人のにぎやかで強力なパーティが編成される。楽しく充実した合宿となった。詳しくは下記、各参加者の記録文をお読みいただくことにしよう。



小蓮華岳頂上から白馬主稜

#### ◎上野午 記

3 日間ともに快晴で無事終了しました。初日の小蓮華北西面滑降は、急斜面のトラバースや尾根乗っ越しのルートファインディングに手間取り、渡渉点幕営地に着いたのは 19 時でした。2 日目の雪倉は 5 時間登って、大滑降約 2 時間で、沢山のスキーヤー、ボーダーがいました。最終日は予定変更して蓮華温泉から木地屋に降りました。木地屋集落より少し上まで雪が残っていました。

私は久々の山スキーで、長く重たいチョット前の山スキー、しかもプラ靴両足部分崩壊となり、へによへによの足でのスキーで疲れました。遠藤さん、連絡先ありがとうございました。



雪倉の登り 昨日滑った小蓮華北西面を背に



## ◎尾崎 記

初日は装備一式を背負って小蓮華岳北西面滑降。三国境手前を選んで急斜面にシュプールを描く。午後の射光が雄大だ。大トラバースや尾根乗り越しなどルーファイも難しい。クラストし始めた急雪面のトラバースも続き、ようやく渡渉点まで下りて来る。崩壊したブリッジの合間には瀬戸川の激流が見下ろせる。流れのすぐ横では幕営したくない感じ。すでに薄暗くなった雪面を横滑りで下降すると、斜面に半島状に張り出した平坦地発見。19 時、本日はこれにて！雪崩の心配はないし、水も取れるし、景色も良い絶好の地。これはまさに奇跡的。なんとも言い表せない最高のテン場でしたよ。



雪倉岳から白馬岳と旭岳



小蓮華岳北西面

2 日目は、テン場がいきなり雪倉北面大斜面の取り付け点。登りは5 時間あえいでも下りは一瞬。今日の稜線は風が強い。頂上からは小蓮華北西面の昨日のシュプールが、下り途中から僕らのテントがばっちり見えた。さすがは「雪倉」、名にし負う大雪面だ。

3 日目はゆっくり木地屋まで、登り返しもありスノーブリッジへの滑り込みあり、ロングルートを実感する。前日の滑降ルートが真正面に見えた。たったの 2 泊とは思えない、もっと長く山に居たような合宿でした。

糸野さんも報告してくださったので、特別記載！

## ◎糸野 記

とにかく、天候も 3 日間バッチリ恵まれ、充実した山行でした。メンバー、天候ともに恵まれ楽しい 3 日間でした。充実した山行を共にすることができました。雪倉岳は今シーズンの山スキーで是非、行きたいと思っていただけに最高の GW を過ごせました。



雪倉滑降ルートを背にくつろぐ

西朋の皆様には、急な申し入れにもかかわらず快く受け入れていただき、ありがとうございましたとお伝え下さい。機会があれば、また一緒に行けたらと思っています。また、松本の自宅にも気兼ねなく立ち寄って下さい。

初日：

白馬乗鞍山頂からコルまでの下りはハイマツが出て、煩わしい。小蓮華岳までの登りは以前に下ってきた逆コースで、ちょっと懐かしい気分になった。

小蓮華岳からは白馬主稜が手の届きそうなところに雪をしっかりまとして延びているのが見えた。小蓮華岳北西面の滑り出しにはシュプールがなく、振り返るとゲレンデとは異なり自分のシュプールがはっきりわかる。トラバースを繰り返して、夏道がついている尾根に入ると、何本かのシュプールが下に続いていた。これに導かれるようにテン場を探しながら滑っていくと、途渉点近くに絶好の場所を発見！！



雪倉の大斜面

2 日目：

雪見の滝のすぐ左の斜面から取付く。雪渓を詰めたところから右手に乗越し、滝の上流部に入った。右に回り込むと地形図で岩稜帯になっている急斜面となり、スキーを担ぎ始める。標高 2100m くらいから沢が開けて、山頂が見える大斜面となった。すでに滑り始めている人を横目に山頂を目指し快調にキックステップを切っていく。快晴の山頂からは 360 度の展望で素晴らしい。下りはほぼ同ルートを通り、アツという間にテン場に到着してしまった。回し飲みしたビールで喉を潤したが、心地よい充実感が一気に身体に染み渡った。

3 日目：

登山道が少なく、当初の計画を変更して 4 月上旬に下った木地屋へのルートを取った。最初の休憩は雪倉岳の BestViewPoint で取った。前回はびっちり雪が付いていた角小屋峠までの登山道も上部 3 分の 1 は笹藪になっていた。ウド沢源頭部を右岸へと回り込む。トラバースをしながら下っていくと池の脇の登山道経由で林道に合流する。この頃から芽吹きが多く、スキーの滑りも悪くなってくる。だんだん雪も薄くなり、林道上の雪を拾いながら降りていくが、杉ノ平まで来ると雪もなくなり担ぐことになった。雪の間からは露の臺が顔を出し、お土産に採ると春の香りが広がった。あつという間に木地屋集落に着き、今回の山行を締めくくった。



雪倉岳の BestViewPoint で

---

## 0503 北アルプス/ST： 針ノ木雪溪

【期日】 2005. 5. 21(土) 【参加者】 糸野和, 糸野晴(以上 CRUX), 尾崎

---

今年の春は残雪が豊富だ。GW の余韻も冷め遣らぬ 5 月の半ば, 快適な春スキーを期待して, 糸野さんご夫妻と針ノ木雪溪滑降と相成った。天気運にも恵まれ続け, 今日青空。いつか悪天サイクルに突入するんだろなあとと思うと怖かったり, 逆に今のうちに楽しまなきゃと思ったり。(その後秋まで悪天スパイラル)

扇沢から沢沿いに歩き始めると, 15 分も行かないうちに雪の上を行くことになる。大沢小屋よりもだいぶ下である。やろうと思えばシール登高できるが, 砂防堰堤がじゃまをする。途中で付けたスキーも小屋直下の堰堤でいったんはずす。こんな所まで砂防ダムがある実態, この国の土木行政に悲しさを禁じえない。

今日は入山者も多い。ゲレンデにいるボードの女の子? みたいなのも登っている。シール登高で順調にマヤクボ沢出合へ。マヤクボカールを直登するパーティーも多かったが, 我々は針ノ木小屋経由のルートを取った。大滑降を思い描きながら小屋までの急登をこなすのだが, 今日は登って滑るだけ, そう思うせいか気合が入らず体もだるい。

小屋前で大休止の後, いよいよ針ノ木岳へ。右斜面をトラバース気味に行くが, 高度感があり雪稜の雰囲気あり。雪の状態やトレースの付き具合によってはピッケルがあっても良いかもしれない。頂上直下は雪壁となっていて, 注意が必要だ。

頂上直下にスキーをデボし, 最後は空身で登った。頂上から眺める立山・剣の残雪が豊富なこと! 五色ヶ原や水晶岳に西高時代の合宿を思い起こす。足元の針ノ木岳西稜いずれトレースすべし。南に行くに従い雪は減り, 槍穂高連峰は結構黒々して見えた。

雪壁下まで戻り, マヤクボカール目指して滑降開始。最初は急だが雪質はよく, 快適にターンを決める。左へ大きく回りこみ, マヤクボモレーン上へ。そこから見上げる斜面には気持ちよいシュプールが幾重も走っている。モレーン越しに見る蓮華岳も, 青空にととてもよく映えている。

ここからはいよいよマヤクボ沢の急斜面に入る。肉離れから復活したばかりの晴美さんも, 足の調子は問題ない。気持ちを引き締めて再び滑り始めると, 一瞬にして針ノ木雪溪に合流した。そこからも気持ちよく滑っていく。さすがに下部ではちょっとばかり滑りにくい雪質にはなるが, それでも十分楽しめて, 扇沢へと滑り込んだ。

扇沢でびっくり。歩きにくいと思ったら, 兼用靴のソールがはがれてしまった。これも寿命か, また出費。それでも, 去年の洗濯板とは大違い。今年の春は楽しかった。(尾崎 記)

---

## 0507 奥越：荒島岳

【期日】2005. 6. 18   【参加者】尾崎

---

大阪で開かれた学会のついでに、北陸を回って帰京することにした。なにぶんにも訪れる機会の無いこの方面、どこか小さな山でも登ろうと。

手っ取り早いのは百名山ということで、北陸の小京都こと越前大野から荒島岳を目指す。前夜は、勝原という麓の無人駅で快適に眠る。翌朝登山口まで国道を 2~30 分歩くと、スキー場脇から登山道が始まる。ちなみにこの国道はなんと 158 号線、たどって行けば高山を通って上高地をかすめ、松本に至るのだった。

細木のブナ林をそよぐ風が下界の暑さを忘れさせる。登山道歩きは快適に飛ばし、一気に稜線へ。急登して森林限界を抜けると、さわやかな稜線が頂上まで続いた。歩き始めて 3 時間もせずに頂上へ着いたが、靄がかかって白山や北アルプス方面を見渡すことはできなかった。

下山は勝原へは降りず、分岐を直進して小荒島岳に立ち寄り、みずごうへ。奥越の山に足跡を残すことができた。しかしむしろ、今回は地方見聞の方が大きかったかもしれない。この地域、昨年(2004 年)の福井豪雨で大きな被害を被っている。今でも、足羽川にかかる橋がいくつも途中で切れていたり、欄干がひん曲がっていたりする。JR の線路もちぎれたままで、川原は整備工事が続けられている。原発の町と思って途中下車した敦賀は、本当は漁港の町だった。福井は戦国大名朝倉氏の城下町で、織田や徳川との関係も深い。百聞は一見にしかず、そんなことも感じた旅だった。



---

## 0508 奥秩父/WC：入川大荒川谷～ナメラ沢下降

【期日】2005. 7. 17-18   【参加者】松本，加藤，高橋，尾崎

---

松本先輩，加藤先輩，尾崎君，今回はありがとうございました。簡単にですが，報告をまとめました。手違いで時間を録音したデータを消してしまいましたので，時間は写真から判断しますので，多少間違っている部分もあります。写真は沢山撮ってきましたので，後でまとめてアップします。

17 日 入川釣り場 11:00 - 11:56 赤沢出合 12:10 - 12:48 1230m 12:56 - 13:30 下降 - 入溪 14:09 - 17:30 幕

朝 6 時に東京を二台の車で出発，西沢溪谷に一台デポ，もう一台で入川の溪流釣場に入る。この駐車場は釣り客専用だが，500 円／日で登山者も駐車する事ができる。11 時，登山開始。水平な軌道跡を進み，赤沢谷出合より登りになり，尾根をのっこして金山沢出合まで下降気味の登山道を進み，道標の脇から沢へ下降。

14 時半，沢床で沢靴に履き替えて遡行開始。巻き道は，岩に濡れた泥の付着したような悪い部分があるが，総じて明瞭。

16 時ゴンザの滝着。左岸の巻き道は明瞭。滝を巻いた先の河原ではテント村になっていたの，先に進む。直ぐ次ぎのゴルジュでは，出口の滝を突破できず，手前の滝落ち口で右岸側に尾崎君がザイルを伸ばし，小さく巻く。

17 時半，幕。今回はタープ。たき火で乾かし大会。

18 日 発 5:25 - R - R - 8:54 三俣 9:12 - R - 11:03 破風山 11:32 - R - R - 16:00 雁坂トンネル脇

4 時起き，5 時半発。10 数 m クラスの滝が多いがよく観察するとルートが見えてくる。ほとんど巻かずに進むことができ，見上げる滝に梅雨開けの空がまぶしい。途中一箇所，20m 程度の滝右壁でザイルを出す。

三俣の真ん中に入ると岩が砂っぽくなる。9 時半，水枯れる。最後の詰めは破風山の北尾根に上がり，かすかな踏み跡をたどる。しかしそれも途中で見失うが，尾根上を進んで 11 時，破風山着。

11 時半，昼飯後にナメラ沢下降開始。最初に尾根道に入ってからササの斜面を下って，12 時半，沢床へ降りたが，どうしても時間がかかった。稜線から直接下れるルートがあるはずなので，今回

取ったルートは違うのかもしれない。

15 時半、雁坂峠林道、16 時、雁坂トンネル料金所脇の駐車場。

(高橋 記)

---

## 0509 中ア前衛：坊主岳

【期日】2005. 7. 31 【参加者】尾崎

---

奈良井ダム右岸の道から尾根に取り付く。踏み跡は祠と石仏のところからすぐに不明瞭になって、さっそくルーファイミスをする。尾根に戻って忠実に地形をたどると、傾斜が一段落した。しかしすぐに背丈を没する埃だらけの笹藪となり、憂鬱に歩を進める。傾斜が増してようやく藪を脱する。山頂間近で右に経ヶ岳方面の視界が開ける。山頂直下で急に樹林が開け、背の低いササ帯となって明るい頂上だった。空気の澄んだ冬は展望に恵まれそうだ。残念ながら今日は遠くは霞っている。下りは往路を駆け下り、奈良井宿の街並みを抜けて帰途に就いた。

そのうち雪の締まる頃、坊主岳から経ヶ岳へとつないで、伊那に降りるのもいいかもしれない。

---

## 0515 新庄神室連峰南部

【期日】2005. 9. 2-3 【参加者】尾崎

---

9/2

鵜杉 6:35 - 登山口 7:20 - R - 9:42 槍ヶ先 9:47 - 10:37 1194m ピーク 10:47 - 11:08 火打岳 11:30 - 12:36 槍ヶ先 13:04 - 13:49 八森山分岐 14:04 - 14:40 分岐水汲み往復 15:15 - 15:25 一杯森(幕)

前夜というか前日午後、18 きっぷで東北線と奥羽線を乗り継ぎ、新庄駅に最終で着。朝一の陸羽東線に揺られ約 20 分、鵜杉駅から歩き始める。

親倉見までは山村の風景。田んぼの中を歩き、尾根に取付く。下界は晴れ間がのぞくが稜線は暗いガスがかかっている。雷が心配。さほどの急登もなく槍ヶ先へ着いてみれば、視界もそこそこきいている。少し安心して今日は火打往復、一杯森のプランで行こうと考えた。アップダウンがある。火打山に近くなると東側は大横川へ切れ落ちている。

往路を引き換えすうちに天気が良くなり、前後の山脈が見渡せて気持ちよい。火打岳を振り返ると神室の怪峰と呼ばれるにふさわしい風格だった。今日は朝から暑くて休憩ごとに水を飲みまくる。槍ヶ先からもアップダウンが多く、標高が低くなった分さらに暑い。八森山の分岐を右に

入ると曲がり沢の源頭を手近に見下ろすようになる。絶対そこには水があるはずだ。八森山と一杯森をショートカットする登山道がそれを横切っているの、そこで水が汲めるはず。水を得られなければ杣蔵山まで行かねばならないが、ちょっとその元気は無いし、気持ちいい青空のもと幕営したいもの。

案の定、最低鞍部で曲がり沢源流の沢音が聞こえた。しかし、そうは問屋が卸さない？ 2 万 5 千円どおりにはショートカット道は現れず、だんだん沢から離れてしまう。引き返して鞍部から強引にヤブを漕ごうかと思案しているうちに分岐に到着。荷を置いて下っていくと、上にはさっき気をもんで歩いた道が見渡せた。荒れ気味の道を 7~8 分ほど下って豊富な流れに降り立つ。水場では服も靴も全部洗って全裸で行水した。生きてる！っていうより、生活してる！！って感じで快い。

一杯森の頂上にツエルトを張って、青空を眺め、夕日を浴びた。見渡す山並みに、ようやく夏山を実感した。

夜中、稲光らしく空が光っていた。雷鳴も聞こえた気もする。  
AM ラジオをつけてみたがガリッガリッという音はしなかった

(下山後、東京でも雷雨時に試してみたが、家の中でそんな雑音はわからなかった)。念のためツエルトのポールを倒す。雨音もした。外に手を出すと(冷たく細い真っ白な腕に捕まれたらどうしよう…)、やはり雨がぱらついてガスに巻かれていた。こんなところに幕営したことに反省もした、しかし多分大丈夫である。根拠はないがちょっとの自信はあった。とにかく今さら動く気はないので寝てしまうに越した事は無い。



9/3

発 6:01 - 7:09 杣蔵山 - 杣蔵山荘 7:37 - 9:11 山屋キャンプ場 - 10:07 奥羽金沢温泉 10:52 - 11:40 新庄駅

結局？、無事だった。しかしやっぱりガスガスで、雷が少し怖い。だが直感では大丈夫である。

樹林帯に行くことも多くなった。杣蔵山へ近づくにつれ空は明るくなり、時おり流れるガスを越して太陽も見えた。天気のパターンはこんな感じなのかも。杣蔵山から下りの草原でいっきに晴れる。杣蔵山荘まで来れば新庄市民の山という感じで、小屋の手入れに 5-6 人が作業していた。朝の町が見下ろせた。

沢沿いに 1 時間半ほど下って山屋キャンプ場(廃止)からは舗装道歩きになる。50 分ほど行くと右に奥羽金沢温泉がある。歩けばどこへだって行ける。時間は気にならない。すごく貴重なことだと思った。風呂に入ってさっぱりし、さらに新庄駅までは 40 分ほどの道のりだった。

ただの縦走だったが、エッセンスに富んだ山行だった。何泊かしたような余韻が残っている。ようやく夏にやるべきことをやった。単独の山行もなかなかおもしろい。

## 0516 北アルプス/VR : 前穂北尾根

【期日】2005. 9. 17-19 【参加者】中澤, 糸野和, 糸野晴(以上 CRUX), 尾崎

2005 年 9 月 18 日午前 7 時 40 分すぎ, 前穂北尾根 3 峰の登りで単独者の墜落事故が発生した。我々はこの事故者が北尾根 5・6 のコル上部にてツェルト幕営していた横を追い越した際, 挨拶を交わした。その後, 3 峰登りの核心部を通過した直後, 下方で大音響と悲鳴が響き, 土煙が上がるのを目撃した。

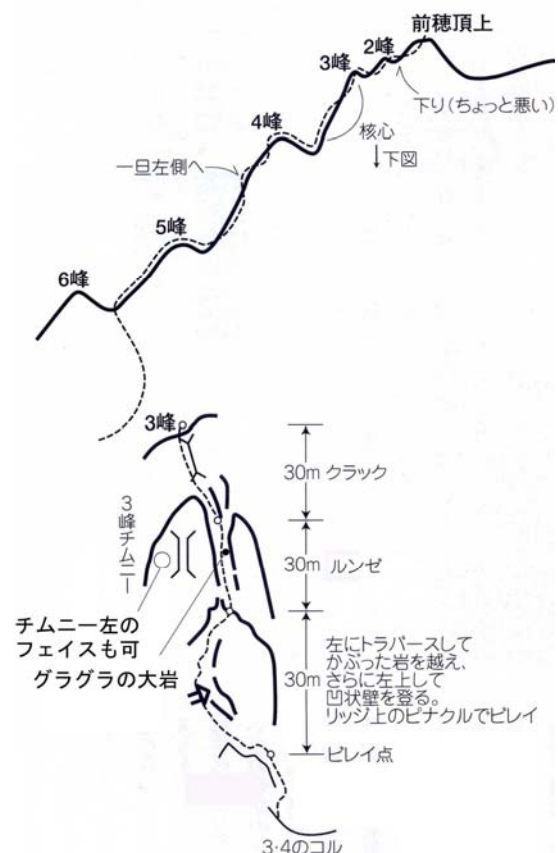
この事故について, 原因は報道には詳しく書かれていないので, 想像の部分も入るが, 前後で得られた情報を加味して考えられることを記録しておきたい。

いろいろなガイドブックや記録によって北尾根ルートの表記はまちまちで, 1 ピッチ目にしても, 3・4 のコルからにしているものとコルから 20m 斜上したところからなど違いがある。ここでは遠藤晴行著「アルパインクライミング」(山と溪谷社)を参考に見ると, 2 ピッチ目については, 「右の岩溝に入る。左のチムニーも登れるが崩壊が続いているので要注意である。」と書かれている。

一方, 涸沢ヒュッテ受け付け左(公衆電話の右の右)のルート取りについての解説は, 2005 年 9 月 18 日現在で, 上記 2 ピッチ目に相当するピッチについて, 遠藤晴行によるガイドとは異なり,

- ①左チムニーのさらに左の比較的傾斜の緩いスラブ状フェースを行くように, 写真に赤マジックで図示。
- ②右岩溝状は複数の×印で進入禁止を示していた。

①を行くと, 遠藤晴行が紹介しているルートでの 3P 目終了点付近に合流する。我々がこの注意書きを知ったのは北尾根登攀後涸沢に戻ってからだった。我々はこれを知らずに, 右の岩溝を行ってしまった。そして岩溝の中間部には, チョックストーンのように見えるひと抱えをはるかに越える大岩がグラグラで, ちょっと体重を掛けようものなら, 岩もろとも落ちようかという状態であった。加えて, 2P 目に右の岩溝状を行ってしまうと終了点の頭上にも別の大



2005 年 9 月 18 日の前穂北尾根状況  
(原図は岳人 No. 707 を使用)

岩が引っかかっていた。現地で見た残置ハーケンの向きからしても、岩が崩落後引っかかった可能性が高い。余りに大きな岩で、まさか、こんな物がルート上の浮き石とは思えないような代物だった。

事故を知った我々は、岩溝中間部に引っかかっていたグラグラの大岩に事故者が体重をかけるなどしたことが原因ではと想像しながら、涸沢へと周回した。収容の県警ヘリが飛来し、流れるガスの中へと何度も接近を試みるのを見た。その位置は上記の推測を支持するものだった。

しかしその後の伝聞情報では、事故はそれよりも下の 1 ピッチ目で発生したとされている。それでも、崩落の大音響と土煙を考えると、この大岩に体重をかけたか、または何らかの別の原因で大岩が崩落し、それに伴って事故が起きたのではないかと思えてならない。

いずれにしろ今回の出来事は、事故はまったく他人事でないこと、一見安定した大岩でさえも浮石かもしれないことを体験させてくれた。加えて、危険を見抜くことの必要性も示唆している。今後山を続けていく限り、教訓として記憶しつづけたと思う。



3・4 のコルから奥穂・涸沢岳



## 0517 頸城/WC 真川焼沢～火打山

【期日】2005. 10. 9-10   【参加者】糸野和(CRUX), 尾崎

10/9 笹ヶ峰 8:35 - 10:53 金山沢出合 11:08 - 12:05 地獄谷渡渉点 12:13 - 12:58 焼沢入溪 - 13:40(幕)

予報は期待できないが、3 連休という理由だけでまたまた山にやってきた。今回は糸野さん希望の火打山だが、百名山に体育の日とあって人人人・・・が予想され、裏手の真川ヌルイ沢を溯行して火打山に立つプランとした。

松本から糸野さんの車にお世話になり、妙高山麓笹ヶ峰へ。濃いガスに霧雨でしばらく天気待ちをすると明るくなってきた。歩き始めの青空にまんまとだまされ、意気揚揚と富士見峠への踏み跡に入っていく。この道はルートファインディングに要注意である。さっそく右岸の枝沢に入ってしまう。そうこうしているうちに空は厚い雲に覆われ、時折小雨も舞い落ちてくる。さらに裏金山沢出合も不明瞭で、いったんこの裏金山沢左岸を進んで赤布を見つける。このあたり、沢も尾根も急ではなく、尾根をすぐに乗っ越してしまう。道形は再び本流に沿っていった。

気温も高くはなく、雨もますます降り気味なので、より簡単な西隣の焼沢に入ることとするが、未練が残る。見下ろす流れは容易そうだが、天気もさえず、最後まで道をたどったので入溪までが長い。やっぱり山は天気しだいだな…

ようやく沢に入れば 3-4 ヶ所、ちょっとした滝があるだけで、あとはボサのかかるさえない溪相であった。入溪後、1 時間ちょいで適地を見つけ、焚き火もできず雨の中の幕営となった。

10/10 発 6:15 - 7:50 胴抜けキレット - 8:35 R 8:50 - 10:01 火打山 10:15 - 11:33 高谷池 11:05 - 14:26 笹ヶ峰

翌日も相変わらず霧雨。ボサのかかる沢筋を詰めていくと、唯一の取り柄というべきか？ヤブこぎもなく胴抜けキレット付近の稜線へ出た。焼山に登山禁止のためか、か細い尾根道に出た。だが実際には、火打から焼山に登っている人も少なくないようだ。1 時間半強の登りで火打山頂上に達すると、本当に人の嵐。こんな天気でも人を集める、百名山パワーとは何物なのか？？？、と言いつつ僕らもちやっかり稼いでいる。下山も沢足袋のまま代掻き状態で、前にも後ろにも人の声と鈴の音ばかり。こんなに人がいりゃ熊なんかでねえよ。トイレもままならぬ。悪態つきつつ今山行の核心は下山であった。

---

0520 南アルプス/VR：仙丈岳東尾根・偵察

---

【期日】 2005. 10. 29-30 【参加者】 尾崎

---

10/29 甲府 4:00=広川原=7:05 野呂川出合 7:12-8:12 大仙丈沢-8:20 取付-9:16 2120mJP 9:28  
-10:15 2300m 10:30-11:50 2550m(幕)

広川原・北沢峠へバスが入るシーズン最後の週ということで、毎週の山行を押して前夜発で出発する。中央線の夜行で甲府入りし、仮眠の後未明のバスに乗り込む。広川原 6:50 発の北沢峠行きバスを野呂川出合で降り、両俣方面に歩を進める。アサヨ峰と鳳凰三山はまだ日が当たっているが、見上げる空は南からだんだんと怪しくなる。

小仙丈沢を過ぎ、仙丈岳東尾根の末端がもっとも突き出た地点に到達。法面補強工事用か？古びたトラロープと赤マークを見つけて林道から一段上がってみるが、濃密な針葉樹で、とても分け入る気にはなれない。再度林道を進むと程なく大仙丈沢まで来てしまう。夏ならこれを詰めれば沢歩きで稜線に行けるし、春ならスキールートとなりそう。ここは山腹を削って林道を通したのか、尾根末端は断崖となっている。仕方なく引き返し、適当な地点を物色しながら歩く。

小仙丈沢右岸側に落ちる東尾根の支稜と、大仙丈沢側に落ちるもう一つの支稜の中間が、目立たない窪となっており、地形的に目印となる。そして、このあたりは急斜面とはいえ断崖ではなく、樹林も密ではない。この場所を取り付き点に決めて小さくマーキングを残す。

常に窪を左に見ながら登高すると、先述の両支稜が合わさって傾斜は緩やかになる。林相も程よい間隔で、傾斜も緩急あるが全体として幕営地点にはこと欠かなそう。左(南)より 2 回ほど目立たぬ尾根が合流する。古い赤布が散見されるとともに、「八王子山の会」と書かれた木製プレートも 2-3 箇所木に付けられている。午前 10 時半ごろから雨脚が本格化するが、気温も高く総じて歩行に困難はない。

小ピークを過ぎ、標高約 2550m の平地に出る。ここは積雪期の幕営適地である。すぐ上が森林限界で、その上は急登のハイマツ帯となる。天候も思わしくなく、目的地に到達したことから、まだ午前 11:50 と時間は早い幕営とする。今回は新テント「ゴアライト X1-2 人用」。フライは別のシートで代用としたので試しを兼ねて念入りに設営してみた。そのシートはテント全体を覆うまでの広さはないが、雨天時に出入り口からテント中心までを覆うには十分で、まあ問題はなさそう。午後は予想以上の雨量であった。

10/30 発 6:25-7:54 2941m ピーク-8:30 仙丈岳 8:56-9:10 R 9:20-10:28 大滝の頭 10:34-  
11:17 北沢峠下-11:59 野呂川出合

予想通り雨は夜半には上がり曇空だが、風が冬の音を立てている。そのおかげか回りはすっかり乾いており、ハイマツ藪漕ぎでも濡れずにすむ。幕営地からすぐにハイマツ帯に突入した。

ハイマツ漕ぎは空中遊泳で、コツをつかめばなかなか早い。遊泳するには適度な傾斜で、むしろ平坦なハイマツ漕ぎのほうが大変そうだ。上部では踏み跡が現れ、その後はアルペンムードのある稜となる。無雪にはまず技術的困難はない。冬にはなかなかの雪稜となりそうだが、短く終わってしまいそうである。右に小仙丈からの尾根道を確認し、快適に登高して合流。頂上の1つ手前の小ピークだった。

下山は地蔵尾根分岐点を経由して、その下り口を確かめる。北沢峠への下りは、雪が随所で凍っている。小仙丈岳を過ぎるころには峠からの登山者が多く登ってきて、その足どりから下りは大丈夫かな？と思わされる人もいた。恐ろしや百名山。北沢峠ではバスまでまだ時間があつたので、野呂川出合まで歩いて秋空を満喫した。

---

## 0522 上越：天神尾根～谷川岳

【期日】 2005. 12. 17    【参加者】 中澤 (CRUX), 尾崎

---

この冬は 11 月から寒さは本格的だ。悪天でかなりのラッセルを予想したが、この日は日本海に低気圧が入り上越はつかの間の登山日和となった。新しくなった谷川ロープウェイ「フニテル」を降り、トレースをたどった。東京を朝発なので先行者は多そうだったが、ほとんどが天神平スキー場裏あたりでの雪訓で、結局先行するのは 1～2 パーティだった。正月の山行前に一度は雪を踏もうと思っていたが、悪天ラッセルを予想したので拍子抜けの感もある。それでも、新雪純白の山々と青い大空に心洗われた。トマの耳までトレースをたどったが、時間もあるのでオキの耳までラッセルした。いよいよ冬山の季節が到来だ。下山は谷川岳名物・頂上大バーンを左に見る。そこには 2 本のシュプールがうねっている。スキーを持ってくれば良かったかも。天神平スキー場上部でビーコン探索の練習をして、忘れかけた感覚をなるべくよみがえらせた。下りのロープウェイに乗るとにわか吹雪となり、麓に下りたころは暗くなりかけていた。

## 冬山合宿 05-06

## 0524 冬山合宿 05-06 南アルプス/VR：農鳥岳北東稜～白峰三山

【期日】2005. 12. 27～31 【参加者】松本，加藤，尾崎

池山吊尾根，弘法小屋尾根とやってきた白峰三山東面。どこだか即答はできないが，また課題は残されている。そんな気持ちで秋を迎えていた。尾無尾根は弘法小屋尾根の隣で見劣りし，食指がはたらかない。大唐松尾根は膨大すぎて掴みどころがない。2 万 5000 図をよく見ると，農鳥岳北東稜から北岳へつなぐとおもしろそうだ。「荒川本谷とアスナロ沢を分けるラインで稜というより尾根である。雪がつかなければ登攀対象とは考えられない。」登山大系はこんなとんでもない解説だが，地図は嘘をつかない。ルートとしての完成度はそれを上回るはずである。

## 12/27

年内の寒波と大雪は近年では著しく，それにビビリながらの出発となる。27 日朝，加藤氏の車で調布を発つ。途中見る富士山は黒々としており，むしろ太平洋側の積雪は少ないか？少し安心して芦安に着けば，凍結のため山の神でゲートは閉鎖。やはり寒波は侮れない。しかしあれは伏線だったに違いない --- 11 月 11 日(金)，仕事のことで意気消沈して帰宅した。土日に予定した農鳥北東稜偵察は，パートナーが得られなかったこともあって脱力してしまう。翌週，島田君が同行してくれることとなり，学生と半学生(?) 2 人の山行ゆえ，帰りは夜叉神越えの旧道を芦安バス停まで歩いたのだった。

だがそのおかげで，足で登っても上のゲートまで 1 時間半，鷲住山下降点まで休みいれても 3 時間ちょいだとわかっていた。南アルプスらしく峠越えのアプローチは，正統派というにふさわしい。1 年の中でもこの冬山は，体力，技術，そしてなによりも準備含めた頭脳面，総合的にいちばんヘビーだと思う。入山前のこの落ち着きはでかかった。

夜叉神トンネルを抜ければ，あの太く根張りのある弘法小屋尾根の下端が目に入る。しかし稜線は荒れていた。トンネル前後の気温差もはっきり感じた。やはり今冬は冷えている。曇空から時おり小雪が舞ってくる。それでも時間通り野呂川へ下降して，いよいよ荒川本谷へと分け入っていく。

荒川本谷下部の破壊には目を見張るものがある。美瀑・煙ノ滝はばりばりに結氷しながら，下半分を砂防堰堤につぶされ何年経つのだろう。今ではさらに上流まで工事用車道が伸びている。6 年前に弘法小屋尾根を登った時，この石をステップに川を跳んだっけ…まさにその大石が，延伸された車道路肩に半ば埋もれ，残りはペンキ飛沫を浴びて屈辱の姿をさらしている。そして，尾根ひだを右に回り込んだ北沢出合には恐るべき光景が展開した。11 月の偵察時，山峡に爆音を轟かせていたその場所は…，6 年前には測量跡があり，



堰堤につぶされた煙ノ滝



新たな堰の建設はすでに予測していた。山肌は抉られ、地面は鉄筋基礎が剥き出し、誰もいない重機脇に迂回水路の瀬音が悲しげだった。趣きを残す吊り橋はもはや無用、朽ち果てる運命にある。今日はその工事現場わきっちょの、前は無かった林道の隅っこで幕営となる。

12/28

初日に北東稜取付まで入るとした元の計画より遅れているので、今日どこまで行けるかがポイントとなる。ほの明るくなると同時に出発し、北沢横手道を経て熊の平を目指す。急な道には鉄パイプが延々と設置されており、これも 6 年前には無かった代物だ。1 日かけて峠越えした山奥のこんな実態を、日本人の何人が知っているのだろうか？知らないということは恐ろしい。

北沢横手道の水平道へ右折する先行トレースがあり、ストックの跡もあってどうも山ヤのようである。こんな時、動物的感覚がビンビンする。僕らはここを左折する。熊の平は落葉松疎林の陽だまりとなっている。ここまで来ても鉄パイプの道を下って細沢の取水口を越えると、踏み跡も終点となる。怪しげな横穴のある取水施設を乗っ越して、裏手の急斜面をよじ登り、尾無尾根末端を少し下ると三ッ瀑の直瀑上に至る。

ここから冬の溯行となる。偵察時はツボ足で凍った川原歩きに苦労したので、すぐにアイゼンを着用する。ピンポイントで渡渉となるにはあらかじめ飛び石も渡してあるので、今度はなかなか順調である。それでも偵察のときと比べ氷は広がり、踏み抜かないか気を使う場面は多かった。進むにつれて雪も増し、半ラッセル状態となってくる。



荒川本谷の溯行(加藤)

11:00 北東稜取り付き。先行トレースのキツネが対岸でこちらをうかがう。雪と氷の間から水をくむ。予定より完全に半日遅れだが、いよいよである。斜面は急だが積雪は川原より少なく、フロントポイントを利かせて快適に登高する。徐々に雪は多くなり、傾斜の緩まる 2150m 付近でワカンに替えるが、結局積雪は風の当たり具合次第で判断が難しい。明日以降を考えると 2450m の緩傾斜帯まで行きたいところだが、おおむねメドもついたので、2350m 地点で幕営とする。

12/29

薄明るくなると同時に出発。樹間に見上げる間ノ岳稜線の積雪は少ない。しかし目の前は太ももほどのラッセルである。おそらく今コース中もっともきついところだ。右から尾根を合わせて緩傾斜帯となる。ここは獣の足跡にならって四つんばいで進むと楽だった。

林相はダケカンバの疎林に変わり始め、尾無尾根、弘法小屋尾根、池山吊尾根を従えた白峰三山東面が北望できる。雪質も締まってきて、ラッセルはいくぶん楽になった反面、風



農鳥岳登頂(加藤・松本)

が強くなってくる。空へ続く無塵の雪稜が登高ムードを盛り上げる。

2550m で森林限界。ここでワカンをアイゼンに換えるが、完全なクラストとはなっておらず、アイゼンでのラッセルを強いられる。森林限界上はかなりの強風だが、ルートそのものの困難性は高くはない。耐風姿勢をまじえながら稜線へと肉薄する。農鳥岳北面には、西農鳥岳中央稜や農鳥岳北面左岩稜など登攀要素の高い支稜がせり上がっている。2950m を越えると、北東稜はこれまでの顕著な雪稜登高から稜線下の岩屑斜面へと吸い込まれる。山頂の標識が意外と近くに見上げられれば、ひと登りで稜線に立つ。一投足の頂上で喜びを噛み締めた。

記念写真を撮って早々に出発。幸い、稜線は雪が吹き飛ばされており、ラッセルはない。加えて、風も収まり暖かい。西農鳥岳へ登り返し、慎重に下降して13時半、農鳥小屋着。やはりここで緊張がとぎれてしまう。それも加味して、北岳山荘までの所要時間は少なくみて3時間以上。時間的にぎりぎり可能だが、リスクは大きい。小屋脇を整地して今日は早めに休息とした。夕景からやがて星空へ。甲府の夜景も瞬くが、今夜は冷えそうだ。



農鳥岳と北東稜(左のスカイライン)

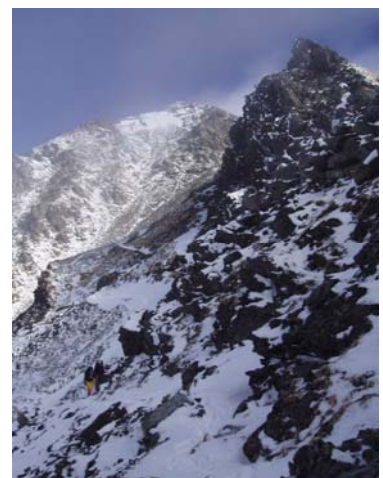
12/30

6 時、黎明に染まる北東稜を背に行動を開始する。ほどなく富士山の左から御来光となり、初日の出を見てしまった気分。週間予報じゃ元旦は曇りらしいし。間ノ岳までは本当に山稜がでかい。頂上でブロッケンを見る。農鳥や北岳がガスに見え隠れするが、だんだんガスが多くなる。右下に弘法小屋尾根を見下ろして縦走路を北進する。弘法小屋尾根にトレースらしきものを見るが、実際に人がいるかどうかは確認できなかった。(後日、下部のトレースともに神奈川山岳会らしいことがインターネットで判明。)



間ノ岳頂上へ(加藤・尾崎)

北岳への登りはやはり悔れないが、頂上に着いてこの山行も実質ピリオドを打つ。池山吊尾根への分岐点に戻り、小休止の後下山開始。このあたりは雪が少なく、トラバース道を通ることもできそうだ。八本歯のカルから見上げるバットレスは、ガスをまといまさに陰悪な冬壁である。カルでは大樺沢かバットレスへか、トレースも伸びている。岩場を慎重に登り、池山小屋への長い下りとなる。



北岳への登高(加藤・尾崎)

さらに今日は歩き沢橋まで。雪がうっすら積もった尾根末端の下降路は意外と悪い。対岸林道から見てからまだ長い。河原の人工物が見渡せるようになると、松本さん曰く、「ありゃ〜、酒屋か?」 !!! 歩き沢橋では酒は酌めぬが水が汲め、なにぶんに

も暖かいのがうれしい。解放されて最後の夜を迎え、2005 年もういよいよ大詰め。

12/31

最終日、今日はおなじみ鷲ノ住山である。400m の登り。早く帰る方が良いので暗いうちから歩き始める。林道は凍結部分もあるが、やはり風は生暖かい。登りは登ってみれば何とかなる。農鳥北面を振り返れば、山稜はとても高かった。

林道に着いて北東稜バックに記念撮影し、下界へと歩を進める。これが最後のピッチといかないのがまた渋い。きっと、今はゲートも開いて夜叉神登山口まで入っているに違いない。サルの大群が落石防止ネットを這いまわっている。「外から鍵閉められてないだろ。」いつもそんなことを言いながら(実際には鍵はない)、芦安側のシャッターで真っ暗なトンネルを抜ければ思ったとおり。ここから歩いて下る人はやはり居ない。

実際はそれほどの距離はない。トンネルを抜けたとき、そして芦安へ下るほど、気温がぐっと上がったのがわかる。峠は世界を分けている。南アルプス温泉ロッジでさっぱりし、昼飯にそばを食って帰京した。「年越しそばですか」とロッジのおばちゃん。そうか今日は大晦日。穏やかな暮れの日だ。



農鳥岳北東稜 登頂記念 (加藤・松本)(尾崎・加藤)  
鷲ノ住山下降点にて 2005 年 12 月 31 日

---

0525 上州武尊山：旭小屋～不動岩～前武尊～沖武尊～宝台樹

---

【期日】2006. 2. 4～6 【参加者】松本, 尾崎

---

土曜日は時おり晴れ間も見え、雪も締まっており、順調に登っていった。不動岩付近までは降雪があり、不動岩の基部のトラバースでは小さな表層雪崩を起こした。2 回懸垂下降するが、まだ楽勝だった。前武尊の登りに入ると青空が見え始め、順調な歩程に意気揚揚といったところ。前武尊頂上ではオリンピックスキー場からのスキートレースが認められた。予定通り前武尊を越えて剣が峰との鞍部に幕営した。

翌日曜日は濃霧に加えて強風であり、出発予定の 6 時の時点でまだ暗いので待機となる。すぐに剣が峰への急登となるが、雪が深いため歩き始めて 5 分でアイゼンからワカンへ交換する。岩場前後で頻繁にアイゼン・ワカンを取り替えるため時間を食った。沖武尊頂上付近では非常に視界が悪く、足元も雪か雪底か分からない。それでも頂上に着いたのは 11 時 15 分。トレースは皆無だが、ここまではまずまずのペースで登高した。

しかし、沖武尊から下降のルートファインディングが困難で、全体として大きく時間をロスした。強風のせいかな？コンパスの針も安定しない。ロープを出して雪壁に表層雪崩を起こしながら下降した結果、もっと近くに見えるはずの隣の尾根が、ガス+降雪による目の錯覚を差し引いても、ずいぶん遠くに霞んでいる。どうやらいつのまにか夏道よりも左の斜面に出てしまったようだった。今度は右へトラバース気味に下降して、ようやく夏道を見つけた時点で 15 時。この時点で下山はそれなりに遅くなる覚悟を決めた。幸いなことに、松本さんの携帯電話が緊急連絡先の上野先輩に通じ、その旨を伝えることができた。

その後、夏道を一度左に外れてしまう。本来の夏道は小さなアップダウンが多いこと、武尊神社の林道へと左に下降すれば雪は浅いと考えたことから、そのまま下降を開始した。しかしその林道のラッセルに 6 時間を要してしまう。午後 11 時近くなって、宝台樹尾根末端の三叉路までたどり着く。ここから人家はもう少しだが、完全に雪に埋もれた道は、除雪地点までどれだけ時間を要するか。夏なら歩いて 20 分もしないだろうが、今地図上をたどると延々と遠くに感じた。実際、下ったところで帰宅も不可能、連絡も取れない可能性が高い。もう 1 泊を決めた。

翌朝、5 時半過ぎにふたたびラッセルを開始する。屈曲する林道を外れ右斜面を下って青木沢集落にでた。7 時前のバスにほどよく乗って水上へ出る。気持ちが高ぶっているのか、不思議と疲労は感じない。通勤客にまみれて高崎へ。2 人とも頬に風傷を負い、場違いな雰囲気のもと駅蕎麦食らって家路についた。

無事だったとはいえ、事前の計画が少々甘かった部分もあると思うし、夏道に行くべきだったと反省は多い。また、悪条件下のルートファインディングの難しさが身にしみた山行だった。吹雪の中でも、コンパスをちゃんと水平にして磁針の動きを緩慢とさせず向きをしっかりと定めるな

ど、漫然としたルートファインディングをしない事、コンパス自体もより良い物が必要だった事を感じた。計画書上の最終下山時刻前に連絡できたとはいえ、緊急連絡先の上野先輩をはじめ、皆様にご心配をおかけし、申しわけございませんでした。

コースタイム

2/4 旭小屋 10:40-11:45 R 11:56-12:49R-15:10R-16:30 前武尊・剣ヶ峰の鞍部(幕)

2/5 発 6:45-8:10R-11:15 沖武尊-林道 16:47-18:55 武尊神社-23:20 幕営完了

2/6 発 5:45-6:35 武尊橋バス停

---

### 西朋 HP から

#### ザイルでの合図について

松本 (28期)

先日の武尊岳の雪壁の下降で、ザイルを2ピッチ使ったのですが、合図が伝わらなく、時間をロスしました。風や、雪が音を吸収すること、目出帽をかぶっていることからホイッスルの音もまったく聞こえませんでした。ザイルを引っ張って合図をする打ち合わせもしたのですが、急に作ったため、中途半端な合図になってしまいました。

その後、少し体系的に考えて見ました。

ザイルを引く回数 意味

- |    |                |
|----|----------------|
| 1回 | NO あるいは STOP   |
| 2回 | 特殊な命令          |
| 3回 | YES あるいは 次の動作へ |

それぞれ登攀者と確保者にわけると次のようになります。

- | 回数 | 登攀者     | 確保者      |
|----|---------|----------|
| 1回 | ザイルをはれ  | 一時登攀中止   |
| 2回 | ザイルを緩めろ | 登攀をやめて戻れ |
| 3回 | 解除 OK   | 登攀開始     |

これと返事の YES/NO をあわせれば、伝わるのではないのでしょうか。

---



コースタイム：駐車場 5:00 → 7:00 6 合目 → 7:30 7 合目 7:50 → 8:50 R（ワカン装着）9:05  
→ 9:45 山頂 10:00 → 10:20 7 合目（ワカン外す）10:35 → 11:30 駐車場

-

滑走 滑れる距離は短いので、登り返して数本楽しむ。

島田くんは初めてで、うまく滑れず。(練習しましょう)

1330 スダレ山 いい斜面でしたが、あっという間に終わりました。

滑走。ちょっと急なので、島田くんは歩いて尾根を下りる。

1450 スキー場を避けるようにトラバース気味に通過。

1545 R(北湯温泉への分岐)

1600 樹林の中を滑って分岐点まで。滑走はここで終了。

1630 北湯温泉

(灘吉 記)

雪がしまっており風も弱く穏やかな春山のようでした。条件が冬山のようなだったら気力体力が十分でないだろうなと感じました。(スキー場の上でしたが)一日真っ青な空の下で雪の山々をみて過ごすといいですね。日焼けもしました。頂上からは裏側の山々も見え新鮮でした。

滑りに関しては全く歯がたたないというかエッジがたたないというか、緩斜面でもすぐバランス崩して転びました。もともとグレンデスキーもあまりこなしていない自分でしたのでやはり無謀なとりくみでした(補足:『つまづいたり ころんだりするほうが 自然なんだな』と思いました。←冗談です)。練習が必要です。

特に上部で、先輩方が広くてきれいな斜面を自由に滑降するのを指をくわえて見てましたが、うらやましいかぎりです。

お二人には靴の付き方をよく見てもらったり滑り方の助言をもらったりもしましたが、なかなか起きあがらなかつたりのろのろスキーを担いだり履いたりするにも関わらず、度々滑るように勧め見守ってくださり、なにしろ辛抱強くお待ちいただきました。おかげさまで山スキーには道具や雪質の難しさがあることを自分なりに体験できました。

いろいろどうもありがとうございました。

(島田 記)



雪も締まって快適



三本槍岳頂上

---

## 0528 北アルプス/ST：梅池～天狗原～山の神尾根

【期日】2006. 3. 4(土)      【参加者】尾崎, 現地同行者 1 名 (幡谷氏)

---

先週の快適スキーに味をしめ、春の好天に誘われて、今度は梅池へとやってきた。今週は昨年のGWに来た天狗原へ登り、かねてより目をつけてきた山の神尾根を滑るつもりだ。無風快晴の超好天。山スキー日和というまでもない。

天狗原への登りで後続の幡谷氏も同行することと相成った。テレマーカーの幡谷氏はパウダー悪雪なんのその。私はえっちらおっちらこけながらついて行くことになってしまう。適度な間隔で現れる尾根伝いの標識を無視し、2050m 付近から右斜面に滑り込む。振り返れば、急な小尾根に2本のシュプール（ここは、こけてない！）が白馬岳をバックに描かれていた。

右に下りすぎると親沢に入ってしまうが、この沢は悪いらしい。良く地図を読み、1750m 前後をトラバースで正規ルートへ戻った。しばらくはただっ広い尾根で、その間に南下しなければ枝尾根を右に分けている。あとは傾斜が出て自然に黒川沢へ導かれる。しかしスキー板が弱層を切って表層雪崩も頻発するようになり、神経を使う。雪崩のスピードは緩かったのもそれほどの危険性を感じなかったが、巻き込まれたら骨折くらいは軽いかも知れない。その後の日陰斜面はパウダースノーだった。そのまま滑って堰堤を2個右から越す。上の堰堤は左岸から越す方が良かったかもしれない。下の堰堤からは右岸の林道を滑って白馬乗鞍スキー場へと出た。次回は風吹大池へ行きたいな。

---

0529 上越：クロガネの頭中尾根（敗退）

【期日】2006. 3. 18～19      【参加者】松本，尾崎，他 1（CRUX・中澤氏）

---

クロガネの頭中尾根から足拍子南稜を下降しようという，あまり距離はないがかなりスパイスのききそうな山行。前夜旭原に入り，雪原にて幕営する。まったく寒くなく月夜が明るい夜だった。

翌朝，荒沢山から足拍子，クロガネの頭まで迫力ある風景が広がる。特に足拍子はクロガネの右奥にスックと立っている。東に見える大源太はミニ塩見岳といったところか。しかしどの山もよくみると木の大きさからしてそれほど大きくはない。

雪原を横断して，足拍子川沿いにラッセルは足慣らし程度。だが見渡す山肌にはいくつも雪の亀裂が入っており，難儀しそうだ。クロガネの頭東尾根末端を登ると右正面に中尾根が急峻に落ちているのが見え，その両側の沢筋は大規模なデブリが押し出している。東尾根からトラバース状に右へ降りてデブリの末端を抜けて中尾根に取り付くと，亀裂をいくつも縫いながらの登高となる。1ヶ所，亀裂からブロック雪に上るのにロープを出す。その後少しで核心の P1 手前岩場混じりのリッジに至る。時刻は午前 10 時半。

真っ正面からの突破は，崩れそうな雪塔のため無理。切れた岩場をアイゼントラバースで左バンドに入ってしなる灌木を分ける。だが，バンド後の直上が垂雪壁で登れない。途中まで戻り右上して強引に枝を乗り越え，高度感のあるリッジを登りつめて太い木でピッチを切る（30～35m）。トップは空身で登ったので，Fix ロープで懸垂下降し今度は荷物を持って登り返す。2P 目，崩れそうな雪壁のトラバース。左へ 10～15m の後，スノーバーで 2 回支点をとり，雪壁直上 10～15m で Fix，懸垂で降りて荷物を回収。3P 目は短くもう一段登り雪稜上へ出て P1 の小ピーク，ここまで尾崎がリード。最核心部は突破したが，あっという間に 3 時間も経過した。

正面には絶好の幕営地といわれる「ホテルクロガネ」があるのに，足元はすんと切れており，どうなるか... 松本さんリードでちょっと進んでみると，雪は続いていたが，キノコ雪状。両側とも落ちて雪橋にも亀裂が入っている。ロンドン橋を渡る気分で 4P 目。ホテルクロガネは今年の大雪に埋もれていた。続く 5P 目（中澤リード）から再び急登。6P 目（尾崎）胸を突く急登。本当に鼻先がつきそうで，雪が崩れたらおしまい。ロープいっぱいのところ無理にあと 1m 出してもらい，確保支点を得る。7P 目（中澤）でようやく平坦部に出た。

またしても雪壁に突き当たる。もう少しは行けそうだがその向こうがまた亀裂が入ってそれを避けると急なヤブ雪稜の連続になりそうで，まったくの保証がない状態となってしまう。16 時半。行動できてあと 1 時間半か。突っ込むか??? 突っ込んで幕営できる? 明日は雨っぽい。無事帰れる??? 3 人とも判断できずに立ちつくした。というよりも，もう結構やることはやったというのが正直な感想。残念だが直感ではここまで。

両側ともすっぱり切れているが、ここなら崩れないし流されない。3 人とも暗黙のうちに了解している。明日空身で登ってみるか？ 逡巡もある。寝る間際、対岸の斜面から右下の沢筋に大きな雪崩が落ちていった。基本的に明日は下山。

翌朝、ラッキーなことに落ちてくるのは雪で、降りかたも弱い。雲底は昨日よりもかなり低く、ここはその真下。視界は短く昨日のようにこの先のルートもあまり見えない。もはやそれはどうでもよく、6 時に下降を開始した。すぐそこから懸垂下降 2P でホテルクロガネへ。さらに 2P で P1 下の核心部を過ぎる。少し歩いてから休憩するが、ここまで出発から 2 時間半ほどを要した。そこからも気の抜けない下降だったが距離は短かった。あとはしっぽ巻いて帰るのみ。旭原には 11:00 ちょうどに帰着する。

遠目にみた感じ、地図上の距離、過去の記録。今度の山はそのいずれよりも難しかった。なんだか、クロガネの頭中尾根は取り付いてから全部が核心部だった... 旭原に戻ってきたとき、墓地の観音様に思わす手を合わせてしまう。このところ厳しいながらも計画達成の山が続いたから、そろそろこんなふう反省するのもいいのかも。とにかく、大雪のあと急に暖かくなって雪はズタズタ。足拍子南稜の下降もやばかったかもしれない。自然は甘くない。

追記：

月曜日を休めば春分の日とあわせ 4 連休となる暦だったが、日月曜日の寒気は強く、八ッの阿弥陀岳、上越の仙ノ倉山、平標山(松本さんの知人)と雪崩や死亡の遭難が相次いだ。早々の下山は正解だった。山行とは常に生と死の分岐点。そろそろ気をつけねばなるまい。



## 2005 年度 超 OB 山行・個人山行記録

### 【超 OB 山行】

平成 17 年 4 月 6 日 (水) 岩殿山 (お花見山行)

参加者：田中実 (4 期), 林武志 (6 期), 田中康弘 (11 期) 他 3 名  
(2005 年度山行総覧にも掲載)

### 【個人山行報告】

山行後または総会前に報告を受けた山行

#### 田中 康弘 氏 (11 期)

昨年、個人での山歩きは以下の通りです。殆どがハイキング程度ですが一応報告します。

2005 年：

4 月 6 日 (水)	岩殿山	林武志さんから報告の通り
4 月 24 日 (日)	陣場山～小仏峠	西高クラスメート (6 名)
6 月 5 日 (日)～6 日 (月)	雲取山	同上 (6 名)
7 月 9 日 (土)～12 日 (火)	上高地～涸沢	同上 (14 名)
10 月 6 日 (木)～8 日 (土)	尾瀬沼	同上 (6 名)
11 月 23 日 (水)	御岳山～日の出山	同上 (8 名)
12 月 25 日 (日)	高川山	同上 (9 名)

2006 年：

2 月 4 日 (土)	本仁田山	松下電工山岳会のメンバー (10 名)
-------------	------	---------------------

#### 橋本 章 氏 (12 期)

今年は雪が多い年と思います。この歳になると、同年代で雪のある山に行こうといっても同行してくれる人があまりいないのが残念です。1-4 月はいずれも単独行です。

2005 年：

4 月 8 日 (金) 丹沢大山

4 月 17 日 (日)

外秩父 7 峰縦走 (42.195Km) に参加予定。今年で連続 5 回目。過去 4 回とも完歩。大体所要時間 10 時間 05 分から 10 時間 20 分。目標は 10 時間を切ること。これからは歳をとるばかりなので、達成は無理かな。

4 月 17 日 (日) 外秩父 7 峰縦走 (42.195Km) ハイキング

前夜発で埼玉県小川町に泊まり、翌朝 6 時 07 分小川駅前出発。朝方は若干寒い感じでしたが、朝日が出るころには気温も上昇、すばらしい天気恵まれました。このハイキング（と言っても大変きつい耐久ハイク）は今年で 5 回目、過去 4 回はいずれも 10 時間以上の所要時間、今年は 10 時間を切る目標で参加。最高峰剣が峰でも 900 メートルそこそこですが、ルートはアップダウンの連続で、消耗を余儀なくされるコースです。サクラやツツジが満開の秩父の里山をいくつか堪能しながら、石尊山、笠山の急登に入り、快調なペースで堂平山に向かう。広々とした堂平山の山頂もサクラが満開。ここから最高峰の剣が峰を通過し、白石峠、定峰峠（昼食）、旧定峰峠などアップダウンを繰り返して大霧山に到着。ここまで出発から 25.4Km、6 時間 27 分。10 時間を切る望みもでてきた。大霧山山頂からは 360 度の見晴らしで、全山春真っ盛り。粥新田峠を越え、秩父牧場の横の舗装道路をガラガラ登り、二本木峠に達した後、さらに皇鈴山、登谷山の登りに入る。足元のスミレの群落がかわいらしい。登谷山からはゴールへは傾斜のきつい舗装道路の下り道。ここでは、西朋時代に先輩に教えられた穂高涸沢や剣岳の下降方法で、腰とヒザ、足首、上体をリズムカルに使い、1 時間 34 分でカバー。疲労がかなりたまってきた、この 32Km 地点からゴールまでをどうカバーするか、ここが重要で、それには 32Km 地点までどれだけスタミナが残っているかにかかっている。そしてゴールの寄居町に 15 時 49 分着。所要時間 9 時間 42 分。59 歳から参加しているこのハイキング、5 回目の今年は 63 歳、年々タイムが短縮しているが、これはどうした訳か？

### 5 月 3 日（火）雲取山(S)

神奈川県から雲取山へはアクセスが悪い。朝 3:20 に車で家を出発。相模湖経由で青梅街道の鴨沢に 6:10 着。あとで気がついたが、少し上の所畑に駐車できる。6:25 歩行開始。スミレ、ヒトリシズカがひっそりと咲いている。ブナ坂あたりから飛竜岳が左手に見えてくる。マルバダケブキが丸い葉を出していた。七つ石方面は割愛して、直接山頂を目指す。雲取山頂着 10:05 着。写真を取りすぐ下山開始。鴨沢帰着 13:10。所要時間 6 時間 45 分。50 年前、中学生のときに初めて登った時は長距離を歩いたという印象だったが、今ではずいぶん便利になった感がある。小鳥やツツジ、マメザクラが多く、なつかしの奥多摩であった。

### 5 月 19 日（木）丹沢大室山(P)

友人 2 人を乗せ車で出発。西丹沢に 7:50 着。出発時は雲行きが怪しかったが、歩行開始 (08:04) 頃には天気は徐々に回復。新緑がまぶしい犬越に向かう。峠では完全に天気は良くなり、石棚山稜がくっきり見える。峠から大室山への登りはきついが、シロヤシオなどツツジが満開で、左手奥には富士山が見え隠れして疲れを忘れさせる。加入道山、白石峠経由で西丹沢帰着 15:16。所要時間 7 時間 12 分。帰路ブナの湯に立ち寄る。

### 6 月 1 日（水）金峰山(S)

牧丘林道が通行可となるこの日に車で出かける。塩山の先、塩平から大弛峠まで完全舗装の林道が、なんと今日から開通とのこと。7:22 峠着。途中、広場と称される場所から金峰山の五丈岩が見え、新緑のカラマツとともに道路斜面には至る所アズマシャクナゲの花が美しい。歩行開始

7:33。峠から上はまだ春は来ていない。植物は眠ったままである。朝日岳 7:56 着、金峰山着 9:22。山頂からの眺めはすばらしく、白銀に輝く南アルプス連山、八ヶ岳連峰、その後ろに北アルプス、南方には秀麗な富士山、東方は国師岳。奥秩父の最深部の金峰山にこのように車で簡単に来れるのはよい事かしばし考えさせられるが、とにかく金峰の美しさを堪能できた。車で山の近くまで来て、ピストンで登ってくるやり方自身が邪道か。

#### 6月24日（金）乾徳山(P)

車で徳和まで行き、乾徳山往復。頂上直下のクサリ場は初心者連れだったので敬遠し、右側の巻き道を使う。高原ヒュッテ近くのレンゲツツジが美しい。所要時間 6:59。帰路、笛吹の湯に立ち寄り。

#### 7月8日（金）大菩薩(P)

新緑の時期が過ぎ、緑が濃くなってきたこの時期に、おそらく静かな登山が楽しめるだろうと予想して出かけた。塩山からタクシーで福ちゃん荘までゆき、9:43 歩行開始。南方面に早くも雷雲が発生。大菩薩峠 10:16 着。今日の予定コースである、大菩薩から南下する、牛奥のガンスリ、黒岳、湯の沢峠方面は雷の名所。本日もすでに朝から怪しい。急遽、予定を変更して、北の大菩薩嶺に向かう。賽の河原など稜線は涼しく、快適。丸川峠経由、裂石着 14:10。帰路大菩薩の湯に立ち寄り。

#### 7月22日（金）南ア地蔵・観音岳(S)

夜中の 2:00 家を車で出発。相模湖、中央高速、韮崎を通過して御座石鉱泉に 5:00 着。朝食をとり、準備体操をして、5:20 歩行開始。急登の連続である。燕頭山着 7:55。頂上は見晴らしが殆どない。山頂から少し下り返した場所から、突然北方に甲斐駒が長い黒戸尾根を従えているのが目に入る。ここからは、今日の目的地地蔵岳のオベリスクも見える。鳳凰小屋着 9:25。小屋は豊富な水と休憩場所があり、近くにはクルマユリ、フウロソウが咲いていた。しかし、この小屋から上は森林限界となり、カンカン照りの急坂ザレ道を賽の河原に向かうことになる。賽の河原着 10:25。予定の時間よりかなり早く到着したので、観音岳に向かうことにした。11:50 観音岳着。南方の北岳方面はガスがかかり、又、今来た地蔵方面も急激に曇ってきた。すぐ引き返すことにする。岩稜、鳳凰小屋経由で同じ道を下山。御座石鉱泉帰着 15:18。所要時間 9:58。19:30 自宅帰着。

#### 8月7日（日）～10日（水）中央アルプス縦走(S)

8月7日。青春 18 キップで、中央西線の原野駅下車、木曾駒高原の別荘地を通過して、大原の YH に宿泊。

8月8日。朝から雨模様。7:11 歩行開始。引き続き別荘地を縫って歩き、スキー場の横から登山口に向かうが、茶臼岳方面の林道に迷い込み、1 時間 20 分ロスした。登山口の林道終点から急登が始まる。上から大学生のパーティーが下山してきたが、これ以外、登山者に全く出会わない。4 合目半の力水はうまい。7 合目(12:24 着)の避難小屋は新築でトイレもあり、収容人数は

10 人位か。7 合目から 8 合目は大きな岩の上を歩く。木曾駒が見え出す。8 合目(13:28 着)水場あり。顔を洗う。この場所はモレーン最下部の様相を呈しており、ダケカンバ、ナナカマドが多い。最後の標高差 300 メートルを登り、玉の窪山荘着 14:41。今夜の宿泊者は自分ひとり。夕食まで時間があるので、木曾前岳まで行ってくる。付近はお花畑が見事。山荘からは木曾駒、宝剣、空木、南木曾岳、三の沢岳が見える。夜、小屋のオヤジに呼ばれて、イノシシの肉をサカナに一献ご馳走になった。

8 月 9 日。快晴、5:50 歩行開始。駒ヶ岳山頂付近のコマクサが満開。山頂 6:20 着。すぐ宝剣に向かう。宝剣の南斜面は危険と地図に書いてあるが、全く問題ない。三の沢岳への分岐点 7:32 着。三の沢岳が美しい。ここから往復 3 時間 20 分である。予定では、玉の窪から木曾殿山荘まで 8 時間 30 分のコースで、この 3 時間 20 分を加えると 11 時間 50 分となる。天気は良い。よし、行こう。16 時までには木曾殿に着けばよい。三の沢岳はルートはしっかりしており、高山植物も豊富。8:49 三の沢岳着。空木方面に雷雲発生。すぐに引き返す。分岐点帰着 10:17。この頃より、縦走路はガスがかかり始める。極楽平以南は登山者が少ない。島田娘、2711P は不明。濁沢大峰らしき標識点着 11:27。檜尾岳の登りはタフ。山頂(12:54 着)は濃い霧。熊沢岳の登りは岩が多くタフ。熊沢山頂 14:20 着。縦走路はアップダウンが多く、また、ちょっとした岩場も頻繁に出てくる。東川岳 15:40 着。ここから急降下して木曾殿山荘着 16:03。この急降下の途中で一瞬ガスが晴れ、空木岳の雄姿が現れ写真に収めた。夜は豪雨。登山客のイビキで殆ど一晩中眠れず。

8 月 10 日。昨夜来の豪雨は小康状態となったが、強風が出始めた。小雨交じりで、暗い。山荘 5:30 発。空木岳へ、すぐに標高 400 メートル差の急登である。雨交じり強風でまともに立って歩けない。四這いになって進む。第一ピークまでが特にひどい強風。空木岳山頂着 6:38。濃い霧と雨、引き続き強風。すぐに駒峰ヒュッテ方面に、池山尾根を下山開始。下山ルートとしては、空木岳避難小屋経由よりも、駒峰ヒュッテから二俣する左ルートが良いらしい。長大な池山尾根を駆け下り、9:14 池山避難小屋着。この避難小屋も新築したばかりで、トイレもあり、20 人くらい宿泊できそう。風は収まったが、雨が強くなった。林道終点では 30 台位の駐車スペースがある(10:15 着)。ここから、駒が池(菅の台バスセンター)までは結構下りが厳しい。駒が池 11:05 着。

### 8 月 31 日～9 月 1 日 日光女峰山(s)

前日の 8 月 31 日に日光駅の近くのホテルに泊まる。市内と女峰山の高度差は 1900m 以上あり、気を抜けない。9 月 1 日 4 時 45 分にホテルを出発し、東照宮西参道から山に入る。行者堂あたりで道が錯綜し、雲竜溪谷方面に入ってしまう、約 30 分ロス。朝の散歩の地元の人に教えられ、ルートに入る。殺生禁断の碑あたりからツツジの木が多くなる。標高 1100m 付近の稚児ヶ墓(07:14 着)で休憩をとって腰を下ろしたとき、その墓標の上部に直径 40cm 位のスズメバチの巣があるのを発見。と、間もなく一匹のスズメバチが現れ、左脚膝の後ろ側を刺した。激痛である。その場をすぐに退散し、激痛をこらえて歩行を開始。5-10 分後、全身に発赤斑が出て、非常にかゆい。アレルギー反応である。樹林帯を抜け、笹原の展望の良い、水場のある場所に到着し(07:50)、小休憩。発赤はますますひどくなる。体も何となくだるい。歩行を継続。ここから急登になる。

白樺金剛（標高 1570m）に到着したが（09:50）、強い疲労感が襲う。ついに下山を決心。11:55 JR 日光駅に帰着。翌日医者に診てもらったところ、重症らしい。左脚はかなり腫れている。実は、今回がスズメバチに刺されたのが 2 回目。医者からは次回にはショックで重篤になる可能性があると言われた。

#### 11 月 13 日 甲武信岳 (s)

ハチが最も獰猛になる 9、10 月は山行きを控えた。朝 03:35 車で出発。笹子付近で気温 3℃。西沢に 05:50 着。朝食と軽い準備体操をして 06:10 出発。近円新道との出会 08:00 着。木賊山 10:02 着。甲武信小屋への下りは積雪があり、アイゼン着用。快晴だが強風。甲武信岳 10:35 着。付近には見事なナナカマドの赤い実。14:10 西沢帰着。19:40 自宅帰着。

#### 11 月 23 日 今倉山・菜畑山（道志山塊）(s)

#### 12 月 3 日 雁坂嶺 (s)

快晴だが、強風。稜線では甲府盆地と秩父盆地が見える。

#### 12 月 24 日 丹沢檜洞丸 (s)

快晴。西丹沢ツツジ尾根よりとりつく（07.50）。1000m 付近より上は積雪有だがアイゼン不要。檜洞丸（10:20 着）からの下山は犬越路経由。檜洞丸と大こうげの西面の急下降は強風とルート凍結でアイゼン着用。檜洞丸山頂から西丹沢まで 1 ピッチで下山。西丹沢 13:03 着。

#### 2006 年：

今年の冬は殊に寒く、また山は積雪量が多いようです。冬山は単独行が多いのと、体力の問題がありますので、日帰りで 6 - 8 時間位の初心者向きの範囲のコースを選んで山に入っています。（s）は単独行、（pl）は複数。

#### 2006.01.03（火）丹沢塔の岳、丹沢山（1567m）(s)

自身の体力測定と今年の山行の平穏無事を祈って毎年正月に塔の岳に登っている。大倉 07:10 出発（快晴無風）、大倉尾根は昨年同様の積雪量であるが、アイゼン不要。09:29 塔の岳頂上着。西の富士山や南アは見え、東の相模湾、横浜、新宿高層ビル群、筑波山が見える。すぐ丹沢山に向かう。尊仏小屋の北側斜面は例年の如く積雪 50cm 以上あり、アイゼン着用。日高や竜が馬場も雪が多いが、例年並みか。10:32 丹沢山着。小休後、すぐに引き返す。塔の岳、小丸、二俣経由で 1 ピッチで大倉帰着 13:43。小丸尾根は大倉尾根に比し登山者が少なく下山に便利。コースタイム 9:05、所要 6:33。

#### 2006.01.12（木）御正体山（1682m）(s)

出発地点の道坂トンネル都留市側出口 P、07:12 出発（快晴無風、-5℃）、ルートは積雪あるがアイゼン不要。岩下の丸、牧ノ沢など 1200m 位の小ピークをいくつかアップダウンを繰り返し過

ぎると、白井平との分岐点に着く 08:58。ここから頂上まで 300m の急登になる。アイゼン着用。積雪 30cm 位か。ラッセル不要。09:42 頂上着。快晴、暖かい。しんと静まり返っている。小休後すぐ下山開始。トンネル出口帰着 11:30。コースはブナ、ナラ、ヒノキと笹原が多い。コースタイム 6:55、所要 4:18。

#### 2006. 01. 24 (火) 西丹沢大室山(1588m) (s)

先週関東地方で降雪があった。2 月の奥秩父への雪山山行の参考に大室山を選んだ。出発地点の用木沢出合い出発 07:20(快晴無風、-6℃)、ルートは凍結しており、出発時点よりアイゼン着用。犬越路 08:25 着。犬越路からのルートは先般の降雪で一部不明だが、所々にトレールが残っている。雪は軽く乾燥して厚くルートを覆っており、アイゼンが利かず歩きにくい。このルートから南方の眺めは今日は特にすばらしい。相模湾がキラキラ光り、伊豆七島の利島まで見える。稜線手前、標高 1400m 位から上はトレールが完全に消え、ラッセルが必要となった。積雪 30-60cm 位。分岐点 10:00 着。分岐点から大室山山頂まで通常は 5 分の距離だが、今回は膝から腰くらいのラッセルを強要された。10:25 山頂着。小休後すぐ引き返す。分岐点より、予定では白石峠方面に下山予定であったが、加入道山方面へのトレールがない。しばらく探索に時間を費やしたが、ついに発見できず仕方なく犬越路経由で下山することにする。12:28 用木沢出合帰着。下山は 1 ピッチ。コースタイム 5:20、所要 5:08。

#### 2006. 02. 05(日)雁峠、燕山(2004m) (s)

立春大寒波である。昨日湘南地方に降雪があり、今冬一番の寒波が列島を南下している。出発地の広瀬新地平は 07:20 で-12℃、寒い。近くの広瀬湖が全面結氷している。07:33 出発。亀田林業林道はツルツルに氷で覆われ歩きにくい。近くを流れる水量の豊富な広川も至る所多量の氷に覆われている。林道は明るい疎林でカラマツが多い。林道終点で広川を何回か渡渉するが着用した簡易アイゼンでは分厚い氷の上で滑りそうである。トレールもこの辺から途絶えがちになる。雁峠への最後の登りは東から朝日があたり、美しい登り道だ。ノウサギの足跡があるのみ。ラッセル 30cm 位。雁峠 09:34 着。右に笠取山、左に燕山への急坂があるが、西方に南アの白い峰々が見える。小休後、燕山への登りに入る。少し登ると、秀麗な富士山とその手前左手に大菩薩嶺の逆三角形の姿が望める。燕山頂上着 10:18、山頂は縦走コースから少しはずれ、見逃しそう。稜線はトレール無く、ラッセルは 40cm 位。すぐ下山開始、1 ピッチで広瀬に帰着 12:23。下山途中、林道でアイゼンをはずして歩行中、傾斜した氷面で 4 回激しく転倒、ヒジと腰を強打した。コースタイム 6:45、所要 4:50。

#### 2006. 02. 14 (火) 七面山(1982m) (s)

出発地点羽衣 07:15 で-3℃、快晴無風。07:40 出発。出発時よりアイゼン、スパッツ着用。すぐ朝日がさしだし暖くなる。敬慎院富士山展望台着 10:23。東方の眺めがすばらしい。北から南に金峰山、大菩薩、毛無山、富士山、越前岳が美しい。展望台から上は積雪量が 30-70cm であるがトレールがはっきりしており、ラッセルは不要。敬慎院までの急登とは異なり、ここからは緩やかな登りに入るが、なお標高差 300m がある。七面山頂上着 11:30。木の間越に南アの聖・赤



石、間ノ岳・北岳が見える。小休後下山開始、敬慎院山門で昼食後、1 ピッチで下山、羽衣帰着 13:28。コースタイム 6:20、所要 5:48。

#### 2006. 02. 23 (木) 茅ヶ岳、金ヶ岳(1764m) (s)

季節の変わり目か、列島を前線が通過することが多くなってきた。晴れ間を選んで急遽出かけることにした。往路甲州街道から見る早暁の下弦の月が見事。出発地点の深田公園 P は 07:10 で +1℃、快晴無風。暖かい。林道は雪があるがアイゼン不要。カラマツの林相で明るい広い谷筋である。女岩 08:00 着、ここから暫く急登になるが、ルートは落葉が分厚く堆積し、また、野鳥が多く、楽しい気分させる。稜線に飛び出して間もなく、深田久弥の遭難碑がある。08:55 茅ヶ岳着。山頂周りの灌木類が伐採され、山頂からの見晴らしがすばらしい。甲斐駒ヶ岳・鳳凰 3 山、八ヶ岳、金峰山、富士山が見える。すぐにガスがかかり、何も見えなくなった。金ヶ岳に向かう。茅ヶ岳の北面下降路は積雪 50cm 位でちょっとした急下降とトレール無しであったので、アイゼンを着用した。金ヶ岳までは小ピークを 2, 3 越え、頂上 09:56 着。ガスが一瞬晴れ、甲斐駒ヶ岳が雲上に顔を出す。小休後、下山開始、1 ピッチで深田公園帰着 11:49。コースタイム 5:50、所要 4:39。

#### 2006. 03. 21 (火) 瑞牆山 (2230m) (s)

中央高速を通り、韮崎から増富ラジウムラインに入る。甲州街道を挟んで対面に白い南アルプス連山が見える。07:45 瑞牆山荘 P 着。-3℃、快晴無風。08:00 出発、富士見平までは明るいミズナラとカラマツのコースで、南面した斜面で着雪はない。富士見平小屋から左手に入ると飯盛山の影に入り、ルートは一変して凍結している。すぐにアイゼン着用。小川山への分岐点 08:50 着より急下降となり天鳥川にで、右岸に渡る。ここから急登となる。河床を何回か徒渉するが、だんだんトレールが薄くなる。途中ナメ滝状の場所では斜面が分厚い氷に覆われ、4 本爪の簡易アイゼンでは歯が立たず危険を感じ、高巻きを試みたが、草付きの急斜面も上部では凍結しておりホールドもなくなって心細い思いをした。頂上直下では北側に回りこんだルートとなるが、ここが急斜面で積雪 60cm 位、ラッセルが必要。10:14 頂上着。金峰山、小川山は見えるが、南アルプス、八ツ岳、富士山などは春霞で見えず。小休後、下山開始。先ほどのナメ滝の下降はさらに危険。慎重にクリアーして 12:06 瑞牆山荘 P 帰着。下山は 1 ピッチ。コースタイム 4:50、所要 4:06。

#### 2006. 03. 25 (土) 雲取山 (2017m) (s)

鴨沢の上部所畑 P に 07:10 着、-1℃、晴れ。07:25 出発。08:32 堂所、七つ石への分岐 09:07 着。このあたりから昨日の雪が残っているがアイゼン不要。11:02 頂上着。飛竜岳は見えず、和名倉山、唐松尾山、甲武信岳などが見える。下山 1 ピッチ。所畑着 13:45。コースタイム 8:10、所要 6:20。

## 中村 正俊 氏 (21 期)

以下の通り、殆どは日帰りのもの。冬は装備と気構えが甘いのでこのところ半端な結末。

17. 1. 8～9	北八ヶ岳・天狗岳～硫黄岳 顔面軽い凍傷	単独 吹かれたため、天狗の先で敗退
1. 29	笹尾根・丸山～日原峠	単独
2. 12	鶴ヶ鳥屋山	単独
3. 19	大沢山～清八山	単独
4. 16	三つ峠～八丁峠～藤の木	単独
5. 3	牛の寝～奈良倉山～鶴峠	渡辺喜仁同行
5. 28	九鬼山～鈴懸峠～朝日小沢	単独
6. 18	笹子雁が腹摺山～お坊山	単独
8. 6～7	富士山	近所の方同行
8. 28	入川谷本谷遡行	西朋メンバー
9. 18	丹沢・葛葉川遡行	渡辺喜仁＋生徒15人位
10. 10	石老山	単独 新品の靴慣らし
10. 28	那珂川カヌー下り	渡辺喜仁＋松本
11. 27	高川山	単独 初狩駅よりほぼ直登し、大月駅 にはほぼ直下降
18. 1. 7～8	八ヶ岳・赤岳	単独 稜線で吹かれて退散（オーバー 手あれば・・・）
2. 11～12	目沢山荘・スキー教室	渡辺喜仁＋生徒13人位
3. 25	滝子山	単独